



平成19年9月14日

各位

会社名 株式会社東京精密  
 代表者名 代表取締役社長C.E.O.兼C.O.O.  
 鈴木 貞勝  
 (コード番号 7729 東証第一部)  
 問合せ先 代表取締役業務会社執行役員社長  
 太田 邦正  
 TEL 0422-48-1011

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成19年5月16日の決算発表時に公表した業績予想を、下記の通り修正します。

記

## 〔連結業績予想の修正〕

19年9月期(20年3月中間期)(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月16日発表)	52,500	7,500	7,500	4,400
今回修正予想(B)	49,000	5,800	6,000	3,000
増減額(B-A)	△ 3,500	△ 1,700	△ 1,500	△ 1,400
増減率(%)	△ 6.7	△ 22.7	△ 20.0	△ 31.8
前期(平成18年9月期)実績	51,838	8,929	8,840	4,998

20年3月期通期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月16日発表)	108,000	17,500	17,500	10,000
今回修正予想(B)	99,000	12,000	12,000	6,500
増減額(B-A)	△ 9,000	△ 5,500	△ 5,500	△ 3,500
増減率(%)	△ 8.3	△ 31.4	△ 31.4	△ 35.0
前期(平成19年3月通期)実績	100,322	14,086	13,612	8,741

(参考)

## 〔個別業績予想の修正〕

19年9月期(20年3月中間期)(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月16日発表)	46,000	5,400	5,400	3,800
今回修正予想(B)	41,500	3,300	3,900	2,200
増減額(B-A)	△ 4,500	△ 2,100	△ 1,500	△ 1,600
増減率(%)	△ 9.8	△ 38.9	△ 27.8	△ 42.1
前期(平成18年9月期)実績	45,064	6,386	6,699	4,060

20年3月期通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月16日発表)	95,000	13,200	13,200	8,400
今回修正予想(B)	85,000	7,500	7,900	4,600
増減額(B-A)	△ 10,000	△ 5,700	△ 5,300	△ 3,800
増減率(%)	△ 10.5	△ 43.2	△ 40.2	△ 45.2
前期(平成19年3月通期)実績	86,827	9,565	9,847	5,666

## 〔修正の理由〕

### 1. 業績の概況

計測事業の受注高・売上高は、計画通り順調に進捗しております。

一方、半導体事業の受注高は、4月から5月中旬までは活況に推移しましたが、その後、一部のデバイスメーカーを除き稼働率が低下したこともあり、減速いたしました。第2四半期での受注高の回復を予想していましたが、回復が遅れております。

以上より、業績全般につき、下期に上振れの期待はありますが、現状では慎重に見ざるを得ない状況です。

### 2. 中間期業績について

計測事業は、売上高・営業利益ともほぼ計画通りの見込みです。

半導体事業につきましては、プローバの受注高・売上高が計画に比べ減少したことを主因として、売上高が計画比35億円の減少となる見込みです。営業利益は、利益率の高いプローバの売上減少などにより、計画比17億円の減少を予想しています。なお、プローバ以外の半導体製品につきましては、多少の増減はありますが、概ね計画通りに推移しています。

### 3. 通期業績について

計測事業につきましては、引続き順調な伸長が見込まれ、下期の売上高は上期比約10億円の増加となり、通期売上高は当初計画どおりを予想しています。

半導体事業につきましては、8月から9月の受注状況は、未だ回復が緩やかで下期の受注・売上高が不透明な現状下、慎重に計画を見直し、下期の売上高は上期と同水準を見込んでおります。

以上より、全体の通期売上高は990億円、営業利益は120億円を予想しています。

### 4. プローバの今後の見通し

プローバの現在の市況は、半導体メーカーによる設備投資の一時的な減速を反映したものであり、ウェーハテストに使用されるプローバの需要は、今後も減少することはありません。一括コンタクトシステムなどの各種効率化プロセスが進展しても、スタック向けデバイスにはより厳密な信頼性テストが要求されるため、相当のテストタイムが必要となり、結果としてプローバの需要は、今後より増加すると予想しています。

### 5. 配当について

株主様を重視する観点より、2007年5月に発表した一株当たり年間70円を実施する予定です。

以上

## ※ 将来の事象に係わる記述に関する注意

この発表文には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。